



淳城南小の授業改善を支える県・市の学校訪問！

岡山県では、管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問が行われていますが、秋田県でも県教委・市教委による学校訪問が計画的に行われ、組織的な授業改善につなげています。最終号となる今号では、能代市立淳城南小学校の授業改善サイクルと学校訪問の連動について紹介します。

学校訪問は授業改善のチャンス！～校長先生の声～

能代市では、県及び市教委訪問が年2回あります。訪問では、2時間かけて全教員の授業参観を行います。その後の協議では、学校経営への助言とともに、授業ごとにフィードバックがあります。



先生方には、普段から学校訪問を、**学校の取組の方向性が確認できる場**と前向きに捉えるように伝えています。

訪問により課題が明らかになると、次の訪問までに学校全体で本年度の重点を再度確認したり、授業者は単元計画を見直したりするなど改善を図ります。

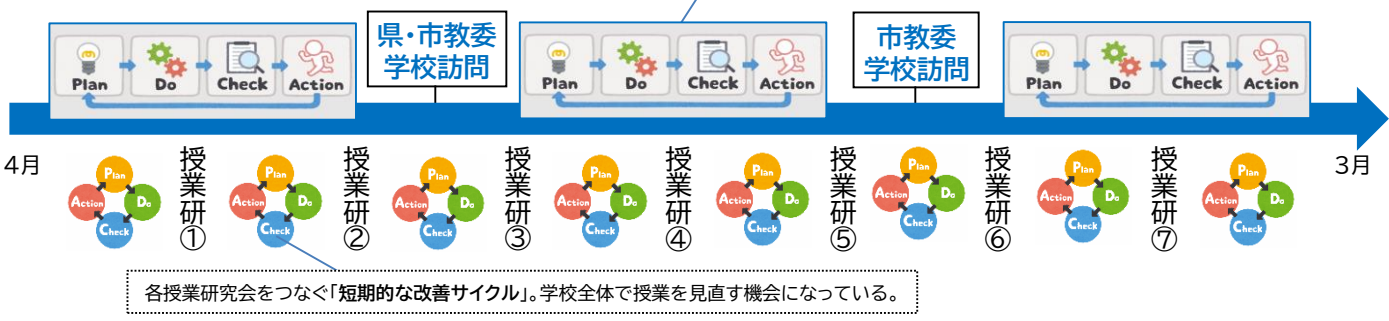
訪問を通じて、学校の授業改善サイクルを大きく回すことで、授業力向上につなげています。



矢田部校長

図 淳城南小の授業改善サイクルのイメージ

学校訪問を「チャンス」と捉えた「長期的な改善サイクル」。フィードバックを生かして校内研究を進める。



また、淳城南小では、定期的に授業研究会を行い（今年度は計7回）、事務所や市教委の指導主事から指導・助言を受けました。そこで見つかった課題の解決に向けて、**次の授業研究会までの共通実践事項を決めて授業に取り入れ、改善していく短いサイクルを回し**ています。



つかみ・見通す	考える	学び合う	たしかめる
成果 →問題場面の把握 (ひイメージ) ○量感を育てる	○復習を生かし て全員が考え をもつ	○0.1 をもとに説明できる ○「それなら」で深める ○話し合いの視点(共通点)	○練習問題数 →全員がわかる達成 ○ICTの活用(AIドリル) ○板書構成、進度の可視化 ○テンポの良さ (タイムマネジメント) ○学習規律の徹底
課題 ↑ 改善策		「共通しているのは、 同じことを何度も言わせすぎ ている ☆困り感を共有し学び合いて ☆不完全なものを学び合へ ☆「まとめ」をもっと子どもの声で	「みんなてきめん」→ ☆が3人か(数人)だけなくべア て言わせる ☆思考判断表現の問題



【写真】授業研究会での協議の様子
(成果と課題を切り出し、改善策を考える。)

能代市教育委員会では、『教育のしろ』（教育委員会作成）『ふいご』（教育研究所作成）の3種類の発行物を作成しています。学校訪問後には『ふいご』を各学校に送付し、訪問時に見つけた良い授業を市内の先生方に紹介しています。



能代市では、若手教員が増えていく中、**よい授業のイメージを小中学校の全員で共有すること**が課題です。

『ふいご』では、「きらりと光る授業紹介」の欄を設け、学校訪問で見つけた市内の先生方に伝えたい素晴らしい授業を紹介しています。

『ふいご』を発行することで、各学校や先生方の主体性や授業改善の意欲の向上につながっています。さらに、市教委の思いや願いが市内の先生方へ伝わり、能代市の学校教育の質の向上につながっています。



能代市教育委員会
佐々木指導主事



【写真】市教委通信「ふいご」



【写真】教育研究所だより「つなぐ」

長期研修を終えて ～すべての道は「授業改善」へつづく～

この1年、多くのことを学びました。特に、秋田県の教育課題である「『問い』を発する子ども」の育成に向けて、県・市町村・学校が一体となり、「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業が進化し続けていることが秋田県の強みだと感じました。

1年間学んだ淳城南小においても、今号で紹介したように、教育委員会の訪問を生かして**継続的に授業改善をすることが風土**となり、先生方が日々授業を進化させています。

さらに、各学校において、校長のリーダーシップのもと、特色ある教育実践が進められており、**教職員や子どもが主体性を発揮する環境づくり**を大切にされていることも大変印象的でした。

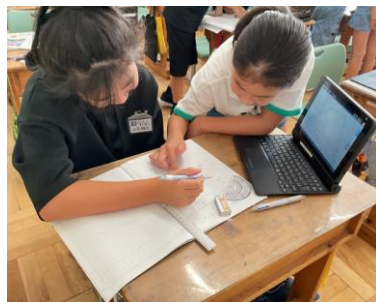
長期研修で学んだことを生かし、岡山県の子どもたちに「主体的に学び続ける力」を育むために、今後も学び続けたいと思います。



山田指導教諭



【写真】2学期始業式 全校授業の様子
(自分の思いを伝えようとする子どもたち)



【写真】授業で学び合う様子



【写真】学びのあしあと
(学習した内容を教室に掲示)